

ふいるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



マルメロのゆるりと香る冬籠

仲町 玉野 研一

初雪や赤子の髪の毛のふさふさと

南桜町 宮腰 幸子

障子貼る心の隙間までも貼る

西岡町 渋谷 みさ子

金色に刻を染めつつ銀杏散る

緑町 池田 良子

足かろし小春日和の土の色

西原町 児玉 久美子

バス停の渦まぐ枯葉風立ちぬ

西町 金澤 頼子

街路樹の枯葉けちらし風走る

仲町 坂部 和子

歳かさねただひたすらに冬仕度

元町 印牧 安子

遅れじと枯葉も走る交差点

元町 西崎 弘子

山の端に半分覗く冬花火

仲町 梅基 文子

歳時記と辞書を手許に冬に入る

旭町 大河 博子

霜月や昔家族で味噌作り

西町 岸波 君江

木枯らしや自販機のお茶温かし

西町 杉浦 とし枝

晩秋の影見て背筋伸ばしけり

西岡町 高瀬 久美子

手の水を振って切るかな大根漬け

東町 高橋 世津子

時雨るに籠りし部屋の電気音

西町 文梨 清子

茜さす時雨しあとの盆地村

仲町 芳賀 星子